



令和7年度

国語

(9 : 10 ~ 10 : 00)

注 意

- 1 検査開始のチャイムになるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙の1ページから10ページに、問題が一から三まであります。
これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二〇二一年四月二十一日、松山市に聖火がきた日、新型コロナウイルス感染拡大のため、公道での聖火リレーは中止となった。^{注1}城山公園にて点火セレモニーだけが無観客で行われ、一列に並んだランナーたちがトーチキスを繋いだ。^{注2}

私はこの様子を自宅のテレビで観ていた。火が灯された聖火皿の傍ら、^①アイサツに立った中村知事は、冒頭絶句し、「すみません！」と頭を下げ、¹号泣した。抑えていた感情がいきなり噴き出したに違いない。ご自身も自転車やマラソンなどスポーツ好きであることは、県民みなが知っている。悔し泣きた。なかなか減らない感染者数、クラスター対策、まん延防止等重点措置など、知事の心労も半端ではないはず。誰かのために必死でやってきた人じゃないと、あんなふうには泣けないよと、知事の涙を受け止める。

サンガイ ジウナコ ラギ

ネパール語で「みんなで生きるために」という意味だ。この言葉を知ったのは高校生の時。愛媛県立宇和島東高等学校の同窓生でもある岩村昇博士が講演会にいられた時のことだった。ネパールなどアジア各国で伝染病治療、巡回診療、予防衛生のための水の確保など、地域の実情に根ざした医療活動が続けておられた岩村博士。博士のことを知らなかったその時の私は、小難しそうな講演を全校皆でグツと我慢で聞く時間やなくと、不遜にも思っていた。^a、その日の講演は、私たち高校生

の心を打った。
山を越えて三日もかかる病院に、お婆さんを背負って運んでくれたネパール人の青年に、岩村博士がなぜ他人にここまでしてくれるのか、と

問うた時の答えが、この言葉だったという。岩村博士のこの逸話は『サンガイ ジウナコ ラギ みんなで生きるために』という題名の絵本にもなっている。岩村博士の言葉は、当時の多感な高校生たちの胸に深く深く染み入った。ご自身も広島で被爆されたにもかかわらず、いや、被爆の経験があったからこそ、「傍観者でいることはできない」と、この仕事を選ばれたに違いない。

講演の後、体育館は静かな興奮に満ちていた。テレビ取材を受け「医師になろうと決心しました」と語る先輩もいた。嗚呼、私も！と思っても、医師になる能力は望むべくもなかったが、「サンガイ ジウナコ ラギ」という言葉は、我が心に強く刻まれた。

その日、興奮冷めやらず家に戻り、父に今日の講演がどういうものであったかを熱く語った。父はいつものように、静かに聞いてくれ、そして言った。「そうか、岩村はそういう仕事を成し遂げとったのか」と。父の反応に驚いた。²ひどく驚いた。一体どういことかと尋ねてみると、「岩村は、宇中の同級生やった」と言う。「宇中」とは、旧制宇和島中学校のこと。私の母校、宇和島東高等学校の前身だ。「物静かな男やったが、大したもんやな、そういう志を貫いたとは」と、父は何度も何度も^②くり返した。

若い頃、父はエンジニアになったかったと聞いたことがある。そんな思いもあり予科練に入隊したが、まもなく終戦となったらしい。戦争から戻り、家業であった特定郵便局を継いだ父にとって、岩村博士の業績は眩しくもあつたに違いない。^{注4}^{注5}

祖父の後を継ぎ、田舎の郵便局長となった父は、五十二歳で生涯を閉じた。 中略

私は父の秘蔵^{注6}つ子だった。何を話しても、子ども扱いせずに対等に話を聞いてくれた。議論することもあつたが、親らしい説教めいたことを

言われたことは一度もない。大学を選ぶ時も、教職につきたいと言いついた時も、私の意思を尊重してくれた。

母や周りの親族たちが、家業の郵便局を継ぐのは長女（私）の務めだと決めつけていた、いや、願っていたことは痛いほど知っていたが、父はきっぱりと言ってくれた。郵便局を継ぐ必要はない。何になるかが大事なのではなく、社会のためにどう生きるかが大事なんだ、と。そして最後にこう言った。「教員は立派な仕事や。子どもに、サンガイ ジウナコ ラギの心を教えてやって欲しい」と。父が、この言葉を覚えていることに驚いた。岩村博士の言葉が私の中で数年かけて熟成し、教員という仕事を指そうとしている。それを、父が理解してくれていることに感動し、感謝した。

再び、美しい炎をあげる聖火皿の横で、感情を抑え、アイサツを続ける知事の顔を思い出す。コロナ禍はまだまだ猛威をふるっている。医療現場の惨状に心痛める。収入の逼迫は足元を焙る火のようだ。不安で心が揺れる日々が続く。気持ちは誰もみな同じだ。

が、ネット上に溢れる屁理屈や自分勝手や自己弁護や他者^③ コウゲキや、もうそんなのはお腹一杯。うんざりだ。知事の涙を見た日。私は、自分のブログにこんな言葉を綴った。

私たち一人ひとり、やるべきことは分かっているのですから。

真つすぐにやろう。^④ イツシヨにやろう。

サンガイ ジウナコ ラギ みんなで生きるために

やるべきことをまずは私がやろう。

父があんなに応援してくれた教員という仕事を、私は八年で辞め、やがて俳人というヤクザな稼業に足を突っ込んだ。夏井&カンパニーとい

うほぼ家族会社となった今、俳句は家業ともなった。父は、こんな私の人生の選択をどう思っているだろう。

この生き方は「みんなで生きるために」という精神に則っているか。サンガイ ジウナコ ラギ みんなで生きるために。それを折々己に問い直すのは、父との会話に等しい。父の信頼を裏切らないための、父との会話だ。

（夏井いつき「瓢箪から人生」^{ひょうたん}による。）

（注1）城山公園Ⅱ愛媛県の松山城跡のほぼ全域を都市公園として開設した公園。

（注2）トーチキスⅡ聖火ランナーが次の聖火ランナーへ聖火を受け渡すこと。

（注3）中村知事Ⅱ当時の愛媛県知事。

（注4）予科練Ⅱ海軍飛行予科練習生の略称で、昭和五年から終戦まで約二四万人が入隊した制度。

（注5）特定郵便局Ⅱ普通郵便局に比べ小規模なものが多い。明治政府が郵便制度を始めた際に地域の名士に業務を任せたことに始まる。

（注6）秘蔵つ子Ⅱ非常に大切にかわいがっている子。

（注7）逼迫Ⅱ追い詰められてゆとりがない状態になること。

1 ①④のカタカナに当たる漢字を書きなさい。

2 ¹ 号泣¹ の意味として最も適切な表現を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 大声をあげて泣くこと イ こらえきれずしくしく泣くこと
ウ ほろりと涙をこぼすこと エ 肩を震わせむせび泣くこと

3 a に当てはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア そして イ しかし ウ かつ エ だから

4 ひどく驚いた² とあるが、なぜ驚いたのか、その理由を説明する次の文の空欄Ⅰ・Ⅱに当てはまる適切な表現を、それぞれ十五字以内で書きなさい。

筆者は（Ⅰ）と予想していたのに反して、父は（Ⅱ）を語ったから。

5 この文章を読んだ生徒たちは「みんなで生きるために」行動する人物について、班で整理することにした。次の【表】は、この班がまとめたものです。また、【生徒の会話】は、班員が【表】を見ながら話し合っている様子です。これらを読んで、あとの(1)～(4)に答えなさい。

【表】

人物		「みんなで生きるために」 したこと	
ネパール人の 青年	中村知事	山を越えて三日もかかる病院に、お婆さんを背負って運んだ	クラスター対策、まん延防止等重点措置など感染症対策を指揮した
岩村博士 (医師)	筆者 (俳人)	アジア各国で地域の実情に根ざした医療活動を続けていた	(Ⅵ)状況の中、(Ⅶ)をした

【生徒の会話】

山中… 筆者は「父」との約束を守ることができなくて悩んでいるようだね。

渋谷… そうだね。立派な仕事だと応援してもらったのに教員を辞めてしまったからね。

服部… えっ、そうかな。「父」は教員を辞めたくらいでがっかりしないと思うよ。そもそも約束を守れなかったことにはならないんじゃないかな。

長屋… 筆者が教員を目指したいと話した時、「父」が言っていたのは（Ⅲ）ということだったね。

服部… 筆者は、教員を辞めて俳句を家業にしているけれど、「父」と会話する気持ちで、（Ⅳ）が（Ⅴ）になっているか、己に問い直しているよね。

山中… なるほど。そうすると、私たちがまとめた【表】に「筆者」がしたことも書けそうだね。

長屋… だったら、「（Ⅵ）状況の中、（Ⅶ）をした」にしたらどうかな。

渋谷… そうだね。筆者は俳人としても影響力を持っているから、筆者がしたことは、「みんなで生きるために」という点に大きくつながるね。

- (1) 空欄Ⅲに当てはまる適切な表現を、文章中から三十三字で抜き出し、初めと終わりのそれぞれ三字ずつを書きなさい。
- (2) 空欄Ⅳに当てはまる適切な表現を、文章中から三字で抜き出して書きなさい。
- (3) 空欄Ⅴに当てはまる適切な表現を、「信頼」という語を用いて、十字以内で書きなさい。
- (4) 空欄Ⅵ・Ⅶに当てはまる適切な表現を、文章の内容を踏まえて、それぞれ三十文字以内で書きなさい。

二 次の【文章1】・【文章2】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章1】（第5章）

『ふしぎなことば ことばのふしぎ』（池上嘉彦^{よしひこ}著）という本にあった例ですが、ある子どもは、足にけがをして、お母さんが「手当てしてあげてからね」と言ったら、「手当てじゃないの。足当てなのよ。」と言ったそうです。「てあて」を「て」と「あて」からできていることばだと思いい足を治療する時には「足当てだよ」と思ったに違いありません。

これらのことばの創造的な使い方の背後にあるのは、「アナロジー」（類推）という推論の仕方です。アナロジーというのは、すでに知っていることを使って、それと似ている未知のことについて推測するという推論です。ここでも鍵になるのは「似ている」という概念です。「似ている」には表面的な見かけの「似ている」もあれば、¹構造や原理が同じという似かたもあります。

アナロジーによる言い間違いは、文法にもみられます。例えば子どもは「好きじゃない」「きれいじゃない」というところを「好きくない」「きれいくない」と言うことがあります。

a

「三角いつみき」、「おもしろいの本」のような間違いもあります。これらも、「四角いつみき」「ぼくの本」からのアナロジーなのでしょう。

【文章2】（第6章）

あることが別のことと「同じ」だという認識は、二つのことの間の対応づけを強化します。何かをきっかけに今まで「違う」と思われていたモノAとモノBが実は「同じ」だということに気づくと、人はごく自然

にモノAとモノBのそれぞれの要素を対応づけようとしています。ある要素（あるいは性質）がモノAに存在することを知ると、それと「同じ」モノBにも同じ要素（性質）が存在するのではないかと考えることもよくあります。これが「アナロジー（類推）」です。

アナロジーについては第5章で説明しましたね。

b

という思考の仕方です。先ほど述べたオカピ^{注2}の蹄^{ひづめ}や胃についての推測もアナロジーの一種といえます。オカピはシマウマに似ている。だから目には見えないけれど体の中の構造もシマウマと同じだろうと考える。これは見かけの「似ている」に頼ったアナロジーです。

一方、オカピとキリンは見た目はかなり違うけれど両方「ウシの仲間」だということを（教えられてあるいは本で読んで）知り、「同じ種類」だからキリンが持っている性質（蹄が二つで胃が四つある）をオカピも持っているだろうと推測する、これもアナロジーです。ただし、こちらは見かけよりも「同じ種類」という、より理屈にあった^①妥当性の高い推測です。

子どもは何かと何かが「同じ種類」だということを知ることによって、見かけに頼ったアナロジーから「種類が同じ」という基準によるアナロジーにシフトできます。また、「同じ種類」ということが直接わからなくても、同じ名前で呼ばれるものは「同じ種類」だと思い、そのモノどうしが同じ性質や構造を持つと考えるということは先ほど述べたとおりです。人は「同じ」を根拠に、知っていることを使って知らないことについて推測するということを、事象や現象を説明するためにも行っています。科学の探究において、すでに仕組みがわかっている現象を未知の現象に

当てはめてその仕組みを考えようとすることは、歴史上でも現在でも
②頻繁に行われています。

例えば²ニュートンの万有引力の法則の発見もそうでした。

ニュートンといえば落ちたリンゴの^③逸話が有名ですが、リンゴが落ちた時にその場でこの法則がニュートンに天から降ってきたわけではありません。ニュートンの時代にはガリレオの落下実験やケプラー^{注3}らの惑星観察により引力の存在が知られていました。そんなある時、ニュートンは「リンゴは落ちるのに、なぜ月は落ちてこないのだろうか？」という疑問を持ったといひます。リンゴが木から落ちるといふ地球上の出来事と太陽や月に代表される惑星の運動を同じ原理で説明できるはずだ、その直感からニュートンは万有引力の法則を発見したのです。

ニュートンは弾力のある紐^{ひも}の先端にボールをつけて振り回した時に、回転するボールと紐の関係が、地球と月の間の関係と似ているということに気がつきました。紐の先端につけられたボールの回転は、紐の引っ張り方によってコントロールされます。紐から手を離せばボールは飛んでいってしまいます。しかし、月は紐も無いのに地球の周りを回り続けています。もしかしたら、ボールと紐の関係と同じように、地球と月の間には紐のような何かがあるのではないかとニュートンは考えました。もちろん地球と月の間に紐が存在するわけではありません。しかし、紐を引っ張る力によって先端のボールの回転が^④制御されるように、月の運動は、地球が引っ張る力によって制御されているのではないかというアイデアから、万有引力の法則の発見が生まれたそうです。

この時に大事なことは、よく理解されている現象とまだ仕組みがわか

っていない現象を対応づける時、二つの現象の間の表面上の類似性（たとえば見た目の類似性など）ではなく、要素の間の「関係の類似性」をあてはめるといふことです。

（今井むつみ著「ことばの発達の謎を解く」による。）

（注1）先ほど述べたⅡ【文章2】の前にオカピの例がある。

（注2）オカピⅡキリン科オカピ属に分類される偶蹄類^{くうてい}。外見からシマウマの混雑種に間違われることが多いが、キリン科に属する原種の動物。

（注3）ケプラーⅡドイツの天文学者。天体の運行法則に関する「ケプラーの法則」を唱えたことでよく知られている。

1 ①④の漢字の読みを書きなさい。

2 1 構造や原理が同じという似かた と同じ意味の表現を【文章2】から八字以内で抜き出して書きなさい。

3

a

 には、なぜ子どもが「好きくない」

「きれいくない」と言うのかについての考察が入ります。それを説明した次の文の空欄に当てはまる適切な表現を書きなさい。ただし、空欄Ⅰ・Ⅱには、具体的な言葉の例を書きなさい。また、空欄Ⅲには、

【文章1】【文章2】の内容を踏まえ、「類推」という語を用いて、五十字以内で書きなさい。

これは「 I」「 II」「 III」というのを覚えて、

4

b

に当てはまる適切な表現を【文章1】から三十五字で抜き出し、最初と最後の四字をそれぞれ書きなさい。

5

2

ニュートンの万有引力の法則の発見もそうでしたとありますが、それを説明した次の文の空欄Ⅳ・Ⅴに当てはまる適切な表現を【文章2】からそれぞれ七字以内で抜き出して書きなさい。

ニュートンはすでに知っている（Ⅳ）によって、（Ⅴ）を説明できると考えて万有引力の法則を発見したということ。

問題は、次のページに続きます。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

長年仏道修行に励んでいた聖を尊んでいた獵師が、久しぶりに聖のもとを訪ねると最近毎晩のように普賢菩薩が僧坊へ現れるのだと言う。聖の召使いの童でさえ、その姿を何度も拝見したと聞いた獵師は、自分も拝見することができないのではないかと考え、その日僧坊に泊まることにした。そして、その夜中過ぎ、僧坊へ例の普賢菩薩が現れたのだった。

聖泣く泣く拝みて、「いかに、¹めし殿は拝み奉るや」といひければ、
どうだ 拝見したか 言つたので

「いかがは。この童も拝み奉る。²をいをい、いみじう貴し」とて、獵師
どうして拝まぬはずがありましよう おお おお なんとも

思ふやう、「聖は年比経をもたもち、読み給へばこそ、その目ばかりに
長年 読み續けておられるからこそ

見え給はめ、この童、我が身などは、経の向きたる方も知らぬに、見え給
お見えになつて不思議はない 分らない。その目に

へるは心は得られぬ事なり」と、心のうちに思ひて、「³この事試みて
試してみ

ん、これ罪得べき事にあらず」と思ひて、尖矢を弓につがひて、聖の拝み
よう こうむるようなことではあるまい 拝み

入りたる上よりさし越して、弓を強く引きて、ひやうと射たりければ、
伏している 頭越しに 射たところ

御胸の程に当るやうにて、火を打ち消つごとくにて光も失せぬ。谷へ
当たつたやうで うち消すやうに 消えてしまった

とどろめきて逃げ行く音す。聖、「これはいかにし給へるぞ」といひて、
大きく鳴り響いて これはどうなさつたのか

泣き惑ふ事限りなし。男申しけるは、「聖の目にこそ見え給はめ、我が
申し上げたことには お見えになるのはもつ

罪深き者の目に見え給へば、試み奉らんと思ひて射つるなり。実の仏な
ともですが、自分のような罪深い者の目にまでお見えになるので、試してみよう

らば、よも矢は立ち給はじ。さればあやしき物なり」といひけり。

まさか 立つことはこさいますまい。立ったところをみると、

夜明けて、血をとめて行きて見ければ、一町ばかり行きて、谷の底に
血の跡を尋ねて行つて見ると

大きな狸、胸より尖矢を射通されて死して伏せりけり。

聖なれど、無智なれば、かやうに化されけるなり。獵師なれども、慮
ではあるが なので こうして化がされたのである ではあるが おらんばかり

ありければ、狸を射害し、その化をあらはしけるなり。
化けの皮をはいたわけである

(「宇治拾遺物語」による。)

(注1) 聖Ⅱ徳や行いのすぐれた僧。

(注2) 普賢菩薩Ⅱ理知・悟りの心を備え、釈尊の布教を助ける菩薩。
多く白象に乗り、常に釈尊の右側に立つ。

(注3) 僧坊Ⅱ寺院に付属した、僧とその家族が住む家。

1 ¹ぬし殿 が指す人物を次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 聖 イ 獵師 ウ 普賢菩薩 エ 童

2 ²思ふやう のひらがなの部分を、現代仮名遣いで書きなさい。

3 ³この事試みてん とあるが、その内容について話し合った生徒の会話を読んで、あとの(1)～(5)に答えなさい。

【生徒の会話】

佐藤… 「この事試みてん」の「この事」とは、() I () ことだね。どうして獵師はそうしたのだろう。

鈴木… () II () からだと書いてあるよ。

高橋… なるほどね。たしかに「聖の目にこそ見え給はめ、我が罪深き者の目に見え給へば、試み奉らんと思ひて射つるなり。」とも書いてあるね。ただ、この「罪深き者」という表現が気になるんだけど……。どうして獵師は自分のことを「罪深き者」だと思っているんだろう。

鈴木… それはこの資料を読んだら分かると思うよ。

「せっしょう」「殺生」 生きものを殺すこと。これは最も重い罪の一つなので、仏教の戒は道・俗の差なくすべてこれを禁じている。特に大乘ではこれを重視し、殺生禁断を強調する。放

生はその一つのあらわれである。」と書いてあるよ。

高橋… そうか。つまり獵師は、() III () を生業なりわいにしている人物なんだね。

鈴木… そうそう。それでも、僧坊に現れた普賢菩薩の正体を見破って、退治したのは獵師だったんだ。

佐藤… 聖の様子を見る限り、獵師がその日僧坊に泊まらなかったら、普賢菩薩の正体が() IV () だと気づかないままだったかもね。でも、どうして聖ではなくて、「罪深き者」である獵師にそれができたんだろう。

鈴木… 聖にはない() V () が獵師にはあったからだと思うよ。最後に両者を比較した二文があるからね。どうやら立場や日々の行いよりも、こっちの方が余程大切にしたいだ。

- (5) (4) (3) (2) (1)
- 空欄Ⅰに当てはまる適切な表現を、十字以内で書きなさい。
- 空欄Ⅱに当てはまる適切な表現を、六十字以内で書きなさい。
- 空欄Ⅲに当てはまる適切な表現を、二十字以内で書きなさい。
- 空欄Ⅳに当てはまる適切な表現を、文章中から五字で抜き出して書きなさい。

空欄Ⅴに当てはまる最も適切な表現を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 知略と熟慮 イ 予知と遠慮
ウ 知恵と思慮 エ 知識と苦慮